別記様式第３号

計画期間

令和３年度～令和１２年度

幌延町酪農・肉用牛生産近代化計画書

令和４年１月

北海道 幌延町

目　次

Ⅰ　酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針　1ページ

第１　幌延町における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢の変化と基本的な方向　1ページ

第２　経営体質の強化に向けた対応方向　1ページ

１　酪農経営　1ページ

（１）生産基盤の強化　1ページ

ア　家族経営体の経営力の強化と協業法人の推進　1ページ

イ　畜産クラスター事業等の効果的な活用　1ページ

ウ　施設整備のコスト低減　2ページ

（２）収益力の向上　2ページ

ア　ベストパフォーマンスの実現　2ページ

イ　スマート農業技術の活用　2ページ

ウ　経営管理能力の向上　2ページ

エ　放牧酪農の推進　2ページ

オ　性判別精液や和牛精液等の効果的な活用　2ページ

カ　乳牛改良の推進　3ページ

２　肉用牛経営　3ページ

（１）生産基盤の強化　3ページ

ア　肉用牛経営と酪農経営の連携　3ページ

イ　和牛の生産拡大　3ページ

（２）収益力の向上　3ページ

ア　多様な肉用牛経営の育成　3ページ

イ　飼養管理技術の向上　3ページ

ウ　肉用牛の改良の加速化　3ページ

３　地域連携の強化　3ページ

（１）労働負担の軽減　3ページ

ア　営農支援組織の活用　3ページ

イ　営農支援組織の機能強化　4ページ

（２）多様な人材の育成・確保　4ページ

ア　次世代につながる人材の育成・確保　4ページ

イ　経営資源の継承　4ページ

4　酪農経営及び肉用牛経営の持続的発展　4ページ
（1）飼料基盤のフル活用　4ページ
ア　自給粗飼料の生産・利用拡大　4ページ
イ　草地の植生改善　4ページ
ウ　放牧地の条件整備　4ページ
（2）畜産環境対策の充実・強化　5ページ
ア　家畜排せつ物処理施設の整備　5ページ
イ　家畜排せつ物の利活用　5ページ
（3）家畜衛生対策の充実・強化　5ページ
ア　家畜営衛生対策の推進　5ページ
イ　海外悪性伝染病への対応　5ページ
第3　生産体制の強化に向けた対応方向　5ページ
1　生乳の安定的な生産　5ページ
2　災害等に強い酪農・畜産の確立　5ページ
第4　需要の創出に向けた対応方向　5ページ
1　食の安全と消費者の信頼確保　5ページ
（1）生産資材の適切な利用　5ページ
（2）衛生管理の充実・強化　6ページ
（3）消費者の理解醸成　6ページ
2　ブランド力の向上　6ページ
（1）牛乳乳製品　6ページ
（2）牛肉　6ページ
Ⅱ　生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標　7ページ
1　生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標　7ページ
2　肉用牛の飼養頭数の目標　7ページ
Ⅲ　近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標　8ページ
1　酪農経営方式　8ページ
2　肉用牛経営方式　8ページ
Ⅳ　乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項　9ページ
1　乳牛（乳肉複合経営を含む）　9ページ
（1）地域別乳牛飼養構造　9ページ
（2）乳牛の飼養規模の拡大のための措置　9ページ

2　肉用牛　9ページ
（1）地域別肉用牛飼養構造　9ページ
（2）　肉用牛の飼養規模の拡大のための措置　9ページ
Ⅴ　国産飼料基盤の強化に関する事項　10ページ
1　飼料の自給率の向上　10ページ
2　具体的措置　10ページ
Ⅵ　生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置　10ページ
1　集送乳の合理化　10ページ
2　肉用牛流通の合理化のための措置　10ページ
（1）肉用牛（肥育素牛）の出荷先　10ページ
（2）肉用牛の流通の合理化　10ページ
Ⅶ　その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項　10ページ

Ⅰ　酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

第1　幌延町における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢の変化と基本的な方向

本町の農業は、自然的、社会的、経済的諸条件から、酪農及び肉用牛生産の選択を余儀なくされました。しかしながら、農地開発事業、草地開発事業、土地改良事業等への莫大な投資により、農地の拡大、生産性の向上、牛舎等の生産施設の近代化、最新の農業機械の導入、高能力牛の導入による個体改良を図り、生乳生産量、個体生産の飛躍的な増加を可能としてきたところです。この結果、広大な土地基盤に立脚した本町の酪農及び肉用牛生産は、天北地域の中核としての地位を得ています。

近年の酪農・畜産情勢に目を向けると、担い手の高齢化や労働力不足、輸入穀物価格の高騰、生産資材の高止まりなど、経営環境は厳しさを増しており、本町の酪農・畜産経営にも大きく影響しております。特に担い手の高齢化や後継者不足、労働力不足にあっては、その対策が急務の課題となっています。

このような情勢を踏まえ、今後も、広大な土地基盤を活かした草地型酪農及び肉用牛生産の継続的な展開が望ましいとの認識に立ち、土地基盤の整備を行っていきます。経営支援については、先進的な技術の導入や近代的施設、農業機械の導入、農作業の外部化、営農支援組織の充実を図ることで、家族経営体の持続的な発展を支援し、更に新規参入者、後継者対策を充実させることで、農家戸数の減少に歯止めをかけ生産基盤の維持に努めます。併せて、大規模法人経営体の育成を進めることで、地域生産量の確保と安全で高品質な生乳・乳製品の安定供給を図り、酪農及び肉用牛生産を基幹産業として、地域経済・地域社会の持続的な発展を進めていきます。

第2　経営体質の強化に向けた対応方向

1　酪農経営

(1)生産基盤の強化

ア　家族経営体の経営力の強化と協業法人の推進

本町における畜産経営体の大宗を占め、地域経済・社会の活性化にも大きな役割を果たす家族経営の維持・発展に向け、労働負担の軽減を図る省力化機械の導入やコントラクターやTMRセンター、酪農ヘルパー事業、公共牧場等の営農支援組織の充実を図り、農作業の外部化など多様な経営展開が可能な環境を整えます。

また、地域経済の維持・発展に重要な生乳生産量の維持・拡大に向けて、規模拡大による生産性の向上や雇用の創出が期待される協業法人の設立を支援します。

イ　畜産クラスター事業等の効果的な活用

幌延町畜産クラスター計画に基づき、地域の酪農生産基盤の強化と収益性の向上を図ります。生産者をはじめ町や生産者団体等の関係者が連携し、畜産クラスター事業等を活用することで労働負担の軽減、新規就農対策、自給飼料利用の拡大等の地域の課題解決を図ります。

ウ　施設整備のコスト低減

近年の畜産関連施設整備における建設コストの高まりにより、生産施設の規模拡大が進まない状況があることから、地域の実情に即した低コストな施設整備ができるよう情報収集に取り組みます。

(2)収益力の向上

ア　ベストパフォーマンスの実現

牛群検定を推進し、検定情報を活用することを飼養管理の基本と位置付け、乳牛検定事業への支援を行います。

また、従来の検定情報に加え、webシステムを通じてケトン体やデノボ脂肪酸などの新たな知見からデータの活用を推進します。

これらの検定情報をもとに飼養管理技術の向上を図り、乳牛の供用期間の延長や受胎率の向上、分娩間隔の短縮、子牛事故率の低下、周産期疾病の抑制、乳質の改善など乳牛の能力を最大限発揮(ベストパフォーマンスの実現)させることにより、生涯生産性の向上が図られるよう関係機関と連携し、情報の発信、技術の普及を図っていきます。

イ　スマート農業技術の活用

生乳生産量の維持・拡大に向けて生産施設の規模拡大を推進すると同時に増加する労働負担に対し、作業の省力化を図り労働生産性を高める必要があることから、搾乳ロボットやえさ寄せロボットをはじめとするICTやIoT技術を活用した機械・施設の導入を図ります。さらに、これらスマート農業技術を飼養管理や経営管理に効果的に活用できるよう情報収集に努めます。

ウ　経営管理能力の向上

家族経営体においては、経営を持続的に発展させるためには、ライフイベントを十分に考慮した長期的な経営戦略を立てることが重要です。このことから、後継者の段階的な経営参画を進め、円滑な経営継承を推進します。後継者に対する研修、学習の場を設けるとともに地域農業のリーダーとなり得る人材の育成を行っていきます。

エ　放牧酪農の推進

本町の広大な飼料生産基盤に立脚した自給飼料利用の拡大として、中小規模の経営体や夏季間の育成牛の飼養管理については、放牧を推進します。放牧の推進により飼料生産や給与、家畜排せつ物処理の省力化、低コスト化が図られるとともに強健な牛づくりに努めます。

町においては、町営牧場の利用推進と機能強化を図ります。

オ　性判別精液や和牛精液等の効果的な活用

生乳生産の拡大を行う上で優良後継牛の安定的確保、増頭は重要な課題であることから、乳牛のベストパフォーマンスの実現とともに性判別精液や受精卵移植の利用を推進することで優良後継牛の確保、増頭を図ります。

また、収益性の高い酪農経営を実現するため、和牛受精卵や和牛精液を活用した乳肉

複合経営の展開を推進します。

カ　乳牛改良の推進

乳牛改良については、乳量や乳成分、泌乳持続性とともに、体型等の改良により長命連産性を高めることで、生涯生産性の向上を推進することとし、牛群検定の加入を促進し牛群改良に努めます。また、ゲノミック評価の生産現場での普及に期待するとともに、高能力牛の導入や受精卵移植による改良速度の向上を図ります。

2　肉用牛経営

(1)生産基盤の強化

ア　肉用牛経営と酪農経営の連携

これまでも本町で飼養される優良な繁殖雌牛を活用し、肉用牛経営と酪農経営が連携して和牛受精卵移植による後継牛の確保、素畜生産が行われてきたところです。今後もこの取組みを推進し、繁殖農家の規模拡大や乳肉複合経営による酪農経営の収益向上を図ります。

また、乳牛・肉用牛の飼養頭数の増加を図り、出荷頭数を増やすことで、地域家畜市場の活性化、農家所得の向上につなげます。

イ　和牛の生産拡大

本町の広大な農地は、農家戸数の減少とともに担い手へ確実に集積されている一方で経営面積が拡大し、自給粗飼料に余剰がでています。酪農専業地帯として培ってきた繁殖技術、飼料生産技術、自給飼料基盤を活用して、和牛の生産拡大を図ります。

(2)収益力の向上

ア　多様な肉用牛経営の育成

酪農を基幹産業とする本町では、性判別精液を活用し乳用種後継牛を十分に確保したうえで、和牛受精卵移植による和牛繁殖牛の確保、素畜生産を行う乳肉複合経営を推進します。また、高齢化が進んだ酪農経営については、和牛繁殖経営への転換など農業経営の延長が図られるよう促します。

イ　飼養管理技術の向上

飼養管理技術の向上により、繁殖雌牛の初産分娩月齢の早期化や分娩間隔の短縮、繁殖雌牛の供用期間の延長などを図ることで、効率的な肉用牛の生産を推進します。

ウ　肉用牛の改良の加速化

ゲノミック評価を活用した優良繁殖牛を確保するとともに、受精卵移植技術を活用し改良速度の加速化を図ります。

3　地域連携の強化

(1)労働負担の軽減

ア　営農支援組織の活用

酪農経営における労働負担の軽減や減価償却資産の負担の軽減、規模拡大の実現に向け、酪農ヘルパー、コントラクター、TMRセンター等の営農支援組織の利用拡大を推進します。

イ　営農支援組織の機能強化

営農支援組織の機能強化として利用拡大による運営の安定化のほか、人材の確保やオペレーター等の技術向上を図る取組みを推進するとともに、雇用の場を確保し、酪農を中心とした地域経済の循環が図られるよう支援します。

(2)多様な人材の育成・確保

ア　次世代につながる人材の育成・確保

新規参入や雇用就農を促進し農業就業人口の増加を図ります。農業実習や農業体験、地域おこし協力隊など多様な体験・交流機会を提供します。

また、農業後継者の育成・確保に取り組み、高い経営管理能力を持った人材の確保、将来の地域のリーダーとなる人材の育成に取り組みます。

イ　経営資源の継承

新規参入者が円滑に就農できるように農場リース事業の活用や幌延町新規就農者支援に関する条例に基づく支援を実施します。また、離農などにより重要な生産基盤である経営資源が失われないために、後継者や第三者などへの円滑な事業継承が行われるよう、事業継承を踏まえた計画的かつ積極的な投資を推進します。

4　酪農経営及び肉用牛経営の持続的発展

(1)飼料基盤のフル活用

ア　自給粗飼料の生産・利用拡大

草地型酪農、畜産を展開する本町は、農業基盤整備事業を継続して実施し、生産性の維持・向上を図ります。また、優良品種の導入やサイレージ用とうもろこしの作付面積拡大、簡易更新による植生改善の実施について、関係機関と連携し、情報の発信、技術の普及を図っていきます。

イ　草地の植生改善

本町の農地の大部分が地域特有の泥炭土壌であり、雑草の侵入による植生の悪化や軟弱な地盤のため起きる地盤沈下、農作業機械の大型化に起因する凹凸が生じ、農作業効率の低下や排水不良を引き起こしていることから、起伏修正や暗渠排水等の基盤整備を行う「草地整備」、雑草を駆除・抑制するため新たな草種・品種を導入する「草地改良」、牧草の生産量や栄養価を維持増進させるため農家が主体で行う「草地更新」を促進します。

ウ　放牧地の条件整備

地域の気候条件から放牧に適したペレニアルライグラスの作付けを推進するとともに、牧柵等の設置など放牧利用ができるよう環境整備を推進します。

(2)畜産環境対策の充実・強化

ア　家畜排せつ物処理施設の整備

家畜排せつ物については、地域の環境に配慮するとともに、自給飼料基盤に立脚した環境負荷の少ない畜産を推進します。これまで整備してきた家畜排せつ物処理施設も老朽化が見られることから、長寿命化が図られるよう施設の補改修を推進します。

イ　家畜排せつ物の利活用

家畜排せつ物は貴重な有機資源であることから、良質な堆肥・液肥の生産や適切な施設管理により農地へ還元することを推進します。

また、幌延町バイオマス産業都市構想に基づきバイオガスプラントの整備を推進します。

(3)家畜衛生対策の充実・強化

ア　家畜営衛生対策の推進

家畜衛生対策については、ワクチン接種等の自衛防疫体制の強化を図り、飼養衛生管理基準を順守し、悪性伝染病の発生防止に努めます。

また、サルモネラの発生にあっては、農業者、農協、町で行う互助制度により発生農場の経営再建を支援します。

イ　海外悪性伝染病への対応

海外悪性伝染病については、農業者に対し、国内外での発生状況について情報提供を行い、農場における侵入防止対策の徹底を図ります。

また、万が一の発生に備え、関係機関と連携のもと、実践的な防疫演習などの取り組みに参加し、発生に備えた防疫対策を強化します。

第3　生産体制の強化に向けた対応方向

1　生乳の安定的な生産

生乳の安定的な生産を行っていくうえで、最も重要な課題は、担い手の確保と労働負担の軽減であることから、新規参入者や後継者の確保、法人化など多様な担い手の確保と営農支援組織の充実、省力化機械の導入による労働負担の軽減を図っていきます。

2　災害等に強い酪農・畜産の確立

自然災害時に備え自家発電機等の整備や農業用水道の長寿命化・防災減災対策、土地改良施設の機能保全に努めます。

また、冬季間の異常気象には、国、道等との連携のもとに、交通の安全性及び道路網の確保を図ります。

第4　需要の創出に向けた対応方向

1　食の安全と消費者の信頼確保

(1)生産資材の適切な利用

ポジティブリスト制度を順守し、農薬や動物医薬品等の適正使用の徹底と生産履歴の記帳・

保管、乳房炎対策としても重要な搾乳機器の適正使用の取り組みを推進します。

(2)衛生管理の充実・強化

消費者の安全に対する信頼確保に当たっては、生乳成分検査等の実施により乳質改善に取り組み、良質乳の生産に努めます。

(3)消費者の理解醸成

学校教育、家庭、行政等との連携を深め、生産者の立場として食への関心、食文化の継承を図り、食育を推進します。

2 ブランド力の向上

(1)牛乳乳製品

良質乳の生産はもちろんのこと、地域の特性を活かし草地型酪農を基礎とした高付加価値な農産物の生産、6次産業化に取組む生産者等があった場合は、これを支援していきます。

(2)牛肉

広大な自給飼料基盤を活かした肉用牛繁殖経営を基本とするが、肉質の高い黒毛和種をはじめ、ホルスタイン種や交雑種など、多様な牛肉の生産に取り組む生産者があった場合は、これを支援していきます。

Ⅱ　生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標

1　生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の範囲	現在（平成30年度）					目標（令和12年度）				
		総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量	総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量
		頭	頭	頭	kg	t	頭	頭	頭	kg	t
幌延町	幌延町一円	7,797	4,971	4,490	7,787	34,962	7,450	4,750	4,300	8,800	38,000
合計		7,797	4,971	4,490	7,787	34,962	7,450	4,750	4,300	8,800	38,000

2　肉用牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の範囲	現在（平成30年度）								目標（令和12年度）							
		肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等			肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等		
			繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
		頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
幌延町	幌延町一円	434	255	0	179	434	0	0	0	440	260	0	180	440	0	0	0
合計		434	255	0	179	434	0	0	0	440	260	0	180	440	0	0	0

Ⅲ　近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

1　酪農経営方式

単一経営

目指す経営の姿	経営概要						生産性指標																備考
	経営形態	飼養形態					牛		飼料							人							
																生産コスト	労働		経営				
		経産牛頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用（放牧地面積）	経産牛1頭当たり乳量	更新産次	作付体系及び単収	作付延べ面積※放牧利用を含む	外部化（種類）	購入国産飼料（種類）	飼料自給率（国産飼料）	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生乳1kg当たり費用合計（現状平均規模との比較）	経産牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間（主たる従事者の労働時間）	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得	
		頭				（　ha）	kg	産次	kg	ha			%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	
Ⅰ つなぎ飼い（集約放牧）40頭	家族経営	40	つなぎ	ヘルパー	分離給与	集落放牧（8.0 ha）	8,000	3.5	イネ科主体 3,500kg/10a	59	コントラクター	-	80	75	10	71（97%）	104	4,144（1,800）	3,801	2,709	1,093	546	幌延町一円
Ⅱ つなぎ飼い 80頭	家族経営	80	つなぎ	ヘルパー 公共牧場	分離給与	舎飼（　ha）	8,500	3.5	イネ科主体 3,500kg/10a	99	コントラクター	-	63	58	10	61（71%）	46	3,658（1,800）	7,993	5,583	2,410	1,364	幌延町一円
Ⅲ フリーストール 120頭	家族経営	120	フリーストール ミルキングパーラー	ヘルパー 公共牧場 育成預託	TMR	舎飼（　ha）	9,700	3.5	イネ科主体 トウモロコシ 3,500kg/10a 5,700kg/10a	110	TMRセンター	-	60	60	10	66（71%）	40	4,801（2,000）	13,963	10,142	3,821	1,910	幌延町一円
Ⅳ フリーストール 150頭 搾乳ロボット	家族経営	150	フリーストール 搾乳ロボット	公共牧場 育成預託	TMR	舎飼（　ha）	9,700	3.5	イネ科主体 トウモロコシ 3,500kg/10a 5,700kg/10a	132	TMRセンター	-	60	60	10	67（81%）	18	2,852（1,800）	17,355	13,285	4,080	2,776	幌延町一円
Ⅴ フリーストール 500頭 法人経営	法人経営	500	フリーストール ミルキングパーラー 哺乳ロボット	公共牧場 育成預託	TMR	舎飼（　ha）	9,200	3.5	イネ科主体 トウモロコシ 3,500kg/10a 5,700kg/10a	448	個別完結	-	68	60	10	73（-）	44	22,043（2,000）	53,719	37,578	16,142	1,922	幌延町一円
Ⅵ フリーストール 550頭 搾乳ロボット	法人経営	550	フリーストール 搾乳ロボット 哺乳ロボット	公共牧場 育成預託	TMR	舎飼（　ha）	9,200	3.5	イネ科主体 トウモロコシ 3,500kg/10a 5,700kg/10a	494	個別完結	-	67	59	10	84（-）	18	9,753（2,000）	59,100	41,054	18,046	3,840	幌延町一円

2　肉用牛経営方式

目指す経営の姿	経営概要						生産性指標																備考
	経営形態	飼養形態					牛				飼料							人					
																		生産コスト	労働		経営				
		飼養頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用（放牧地面積）	分娩間隔	初産月齢	出荷月齢	出荷時体重	作付体系及び単収	作付延べ面積※放牧利用を含む	外部化（種類）	購入国産飼料（種類）	飼料自給率（国産飼料）	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	子牛1頭当たり費用合計（現状平均規模との比較）	子牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間（主たる従事者の労働時間）	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得	
		頭				（　ha）	ヶ月	ヶ月	ヶ月	kg	kg	ha			%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	
Ⅰ 肉専用種繁殖経営（専業）	家族経営専業	繁殖40	牛房群飼	-	分離給与	12	12.5	24.0	去勢8.0 雌8.0	去勢253 雌235	イネ科主体	29	コントラクター	-	83	82	10	409,584（-）	80.0	2,722（1,500）	2,350	1,040	1,310	720	幌延一円

Ⅳ　乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

1　乳牛（乳肉複合経営を含む）

（1）地域別乳牛飼養構造

区域名		①総農家戸数	②飼養農家戸数	②／①	乳牛頭数		1戸当たり平均飼養頭数 ③／②
					③総数	④うち成牛頭数	
幌延町一円	現在	77 戸	68 戸（0）	88.3 %	7,797 頭	4,971 頭	114.6617647 頭
	目標	54 戸	49 戸（0）	90.7 %	7,450 頭	4,750 頭	152 頭

（2）乳牛の飼養規模の拡大のための措置

営農支援組織の充実、搾乳ロボット、えさ寄せロボット等の省力化機械の導入を図り、規模拡大を推進します。

また、牛群検定の加入を促進し、従来の検定情報に加えケトン体やデノボ脂肪酸などの新たな知見からデータを活用し適正な飼養管理のもと供用期間の延長、繁殖成績の向上を図り、雌雄判別精液や受精卵移植技術の利用による後継牛の確保を図ります。

生産基盤の維持として、後継者の確保や新規参入者の受け入れ、協業法人の設立など多様な担い手の育成を図ります。

2　肉用牛

（1）地域別肉用牛飼養構造

	区域名		①総農家戸数	②飼養農家戸数	②／①	肉用牛飼養頭数							
						総数	肉専用種				乳用種		
							計	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種
肉専用種繁殖経営	幌延町一円	現在	77 戸	9 戸（0）	11.7 %	434 頭	434 頭	255 頭	頭	179 頭	0 頭	頭	頭
		目標	54 戸	5 戸（0）	9.3 %	440 頭	440 頭	260 頭	頭	180 頭	0 頭	頭	頭

（2）　肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

酪農経営において、飼養管理の改善と繁殖成績の向上を図り、十分な後継牛を確保したうえで肉用牛生産者と連携した受精卵移植技術を活用した肉用牛生産を推進します。また、広大な土地基盤と酪農で培われた繁殖技術を背景に乳肉複合経営を推進し、酪農家由来の肉用牛生産を拡大します。

更に酪農家由来の肉用仔牛の販売は、飼養管理上のリスクと生産コスト低減のため地域家畜市場への出荷を推進し、市場の活性化と農家所得の向上につなげます。

Ⅴ　国産飼料基盤の強化に関する事項

1　飼料の自給率の向上

		現在	目標（令和12年度）
飼料自給率	乳用牛	61 %	71 %
	肉用牛	73 %	76 %
飼料作物の作付延べ面積		8,210 ha	8,210 ha

2　具体的措置

担い手への農地の集積を進め、農地の効率的な利用を図るとともに、令和１２年度までに650haの草地整備を実施することを目標にします。また、草地整備に加え簡易更新技術の普及を図り、植生改善への取組を推進することで、牧草の単収を3,071kg/10aから3,500kg/10aへ増加させます。

更にサイレージ用とうもろこしの作付を推進するとともに牧草と併せた作付体系により雑草防除の取組も推進することで、作付面積を２１０haから３００haへ拡大します。放牧を実施する経営体については、ペレニアルライグラス等の高栄養品種の作付を推進します。

Ⅵ　生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

1　集送乳の合理化

集送乳については、幌延町農協の直営により実施され、迅速かつ安定的な体制が確保されています。生乳生産量の増加を目標とし、さらに合理的な輸送経路の検討や実施に努めます。集乳道の整備や適正な管理についても推進します。輸送車両については、輸送コストの低減を図るため、大型化を考慮するとともに、適切な更新にも配慮します。なお、冬季間等の異常気象には、国、道等との連携のもと交通の安全性及び道路網の確保を図ります。

2　肉用牛流通の合理化のための措置

（1）肉用牛（肥育素牛）の出荷先

区分	現在（平成30年度）				目標（令和12年度）			
	出荷頭数①	出荷先		②/①	出荷頭数①	出荷先		②/①
		道内②	道外			道内②	道外	
肉専用種	179 頭	90 頭	89 頭	50.3 %	180 頭	90 頭	90 頭	50.0 %
乳用種	頭	頭	頭	%	頭	頭	頭	%
交雑種	頭	頭	頭	%	頭	頭	頭	%

（2）肉用牛の流通の合理化

酪農との複合経営や専業経営を推進するとともに飼養頭数の増加を図り、まとまった出荷頭数を確保し、流通の合理化と地域家畜市場の活性化に努めます。

Ⅶ　その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

計画期間内に重点的に取り組む事項

【事項番号①肉用牛・酪農経営の増頭・増産（対象地域：幌延町一円）】

畜産クラスター事業等の活用による規模拡大、省力化機械の導入や営農支援組織の充実を進め、肉用牛・酪農経営の増頭・増産を図ります。

【事項番号②中小規模の家族経営を含む収益性の高い経営の育成、経営資源の継承（対象地域：幌延町一円）】

農業者の高齢化が進むなか、労働負担の軽減を図るため省力化機械の導入や営農支援組織の充実、放牧酪農の推進による省力化、低コスト化を図り収益性の高い経営を育成します。

【事項番号③経営を支える労働力や次世代の人材の確保（対象地域：幌延町一円）】

農業後継者の育成・確保に取り組み、高い経営管理能力を持った人材の確保、将来の地域のリーダーとなる人材の育成に取り組みます。

また、新規参入や雇用就農を促進し農業就業人口の増加を図ります。